

1 「学びの道しるべ」について

この冊子は、授業の計画と学習の取り組みのアドバイスを記したものです。具体的には、「教科のねらい」「年間学習計画・達成目標」「評価方法の一例」に加え、「授業への取り組みについて」「家庭学習の進め方について」「定期テストの取組について」などの項目を設けています。生徒は定期考査や単元テストなどが終了した後に、学習の取り組みを振り返り、より前向きに授業等に参加することができるように作成したものです。

2 観点別評価について

学習指導要領の目標の実現状況を各観点ごとにA・B・Cの3段階で表します。

(1) 評価資料の例

それぞれの「評価の観点」ごとに、どのような内容の評価資料を扱うかは教科によって異なりますが、次のような資料が代表的なものです。

- ①家庭学習など個別学習の内容 ②授業中の取り組み姿勢 ③ノート、レポートの提出状況およびその内容
④ワークシート・学習カードの提出状況およびその内容 ⑤小テスト・定期考査・実技テストの結果
⑥課題作品の提出およびその状況 ⑦宿題の取組 ⑧発表や話し合いへの参加意欲や姿勢

(2) 「評価の観点」別に集めた資料を数量化し、その結果から達成率を算出します。

- <例> ノート、レポートの提出状況 15回のうち12回の場合 達成率80%
<例> 小テストの合計点 300点のうち120点の場合 達成率40%

(3) 算出した達成率に基づいて、観点別の評価A・B・Cを決定します。

<観点別学習状況の評価の達成率の標準>

評価A	達成率が80%以上で、十分に満足していることを示します。
評価B	達成率が50%以上80%未満で、おおむね満足していることを示します。
評価C	達成率が50%未満で、努力が必要であることを示しています。

3 5段階評定について（評価から評定へ）

「評価の観点」別に算出したすべての評価を総括し、教科として達成率を算出します。こうして得られた達成値に基づいて5段階の評定を行います。

観点別学習状況の評価		評価の観点すべてを総括	評定に用いる達成値	評定	
十分に満足している (80%以上)	A		90%以上	十分に満足できるもののうち、特に程度の高いもの	5
		80%以上 90%未満	十分に満足できるもの	4	
おおむね満足している (50%以上)	B	50%以上 80%未満	おおむね満足できるもの	3	
		20%以上 50%未満	努力を要するもの	2	
努力を要する (50%未満)	C	20%未満	一層の努力を要するもの	1	

※観点別学習状況の評価と評定の関係

観点別学習状況の評価の達成値と評定に用いる達成値の関係を照らし合わせると次のような関係になります。

- <3観点の場合>
- 観点別評価が A A A ならば、評定は4または5になります。
 - 観点別評価が B B B ならば、評定は3になります。
 - 観点別評価が C C C ならば、評定は2または1になります。

評価の観点について

< 従来の評価の観点 >

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価する。	知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価する。	各教科において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかどうかを評価する。	各教科において習得すべき知識や重要な概念等を児童生徒が理解しているかどうかを評価する。
数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさやよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したりその過程を振り返って考えを深めたりするなど数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

<今年度からの評価の観点>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価をするとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。
<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。